

## はじめに

2007年から2008年にかけて、首都圏を中心に、高等学校や大学などで麻しん（はしか）が大流行し、多くの学校が休校となるなど、大きな社会問題となったことは記憶に新しいところです。この流行における麻しん発症者の中には、今までにワクチンを接種したことがなく、なおかつ麻しんにもかかったことのない人たちだけでなく、ワクチンを1回接種したものの十分な免疫がつかなかった人やもしくはワクチンで十分な免疫がついたものの、その後周囲で麻しんの流行がなく、しだいに免疫が低下した人なども多く含まれました。

そのため、2006年に開始された小学校入学前の第2期接種に加え、2008年から5年間限定で、中学校1年生および高校3年生に相当する時期の第3期・第4期接種が開始されました。これにより、1990年4月2日生まれより若い世代は全て、麻しんワクチンの定期接種を2回受けられることとなります。

しかし、東京都の麻しんワクチンの接種率は、第1期こそ全国平均とほぼ同じ（平成21年度：93.2%）ですが、第2～4期は全国平均を下回っています。特に、第4期の接種率は著しく低い値（平成21年度：62.1%）にとどまっています。ワクチンの2回接種率が上がらなければ、麻しんに対する免疫を持たない人が増え、再び若い世代に麻しんが大流行する可能性もあります。

第3期・第4期の対象者のほとんどは、学業やクラブ活動など多忙な生活を送っています。このため、第3期・第4期の予防接種率を向上させるためには、学校から生徒・保護者への働きかけが重要です。

本書は、これまでの麻しんに関する国内外の知見と、当課が実施した都内区市町村および私立中学校・高等学校における麻しん対策に関するアンケート結果などをもとに作成しました。麻しんに関する正しい情報を生徒・保護者に伝えていただき、効果的な接種勧奨をしていただけるよう、内容を工夫し、各学校の取り組み例なども掲載しております。

本書が学校現場で活用され、麻しん発生時の対応が適切に行われるとともに、第3期・第4期の予防接種率が向上し、近い将来、日本から麻しんが排除されることを願っております。

平成23年2月

福祉保健局健康安全部感染症対策課長  
成 田 友 代

※本手引は私立学校を主な対象としています。公立学校の麻しん発生時の対応などは各教育委員会の指示に従ってください。



## 目 次

### 〔総論編〕 麻しん対策の必要性

I 麻しんとは	1
II 国内の発生状況	3
III 世界の発生状況	6
IV 麻しん対策の現状	7

### 〔発生時編〕 麻しん発生時の迅速な対応方法

I 発生時対応の流れ	11
II 都内で発生した集団感染事例の紹介	16
III 麻しん発生時に関するQ & A	19

### 〔予防編〕 感染拡大防止に向けた平常時対策

I 入学時の予防接種歴や罹患歴の確認	21
II 定期接種対象者への予防接種の勧奨	21
III 各自治体の取り組み状況	35
IV 麻しん予防接種勧奨の取り組み事例紹介	39
V 麻しん予防接種に関するQ & A	64

### 〔その他の感染症〕

I 学校において予防すべき感染症	67
II 日本の定期・任意予防接種スケジュール一覧	72
III 感染症の流行状況の把握方法	73

### 〔資料編〕

I 感染症に関する参考サイト	79
II 情報交換の場の紹介	79
III 東京都内の保健所（感染症に関するお問い合わせ先）	80
IV 参考資料	81

